

世界が進むチカラになる。



景気ウォッチャー調査 (東海地区:2023年11月)

2023年12月8日

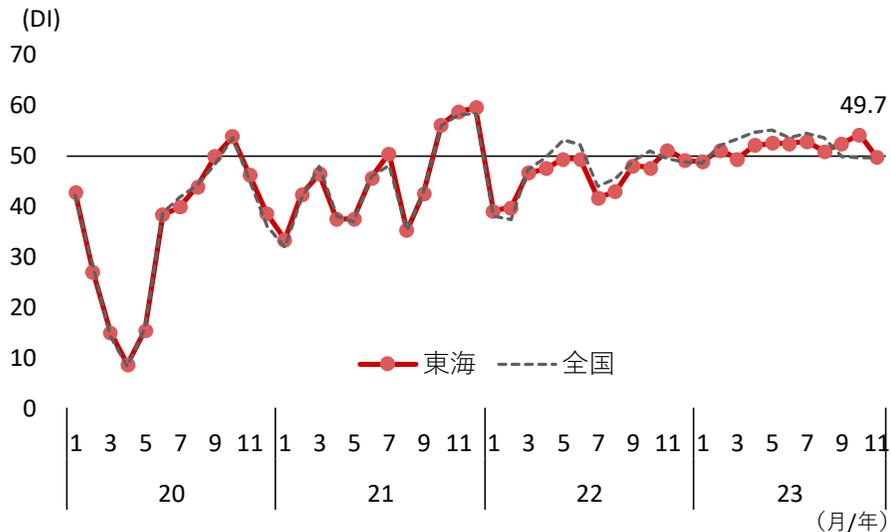
調査部 主任研究員 塚田 裕昭

2023年11月の動き(東海地区)

12月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の11月の

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月差4.4ポイント低下の49.7となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差2.5ポイント低下の46.8となった。
- 景況感の持ち直しが一服している。先行きについては、持ち直しが期待される一方で、物価上昇や収益環境の悪化が懸念されている。

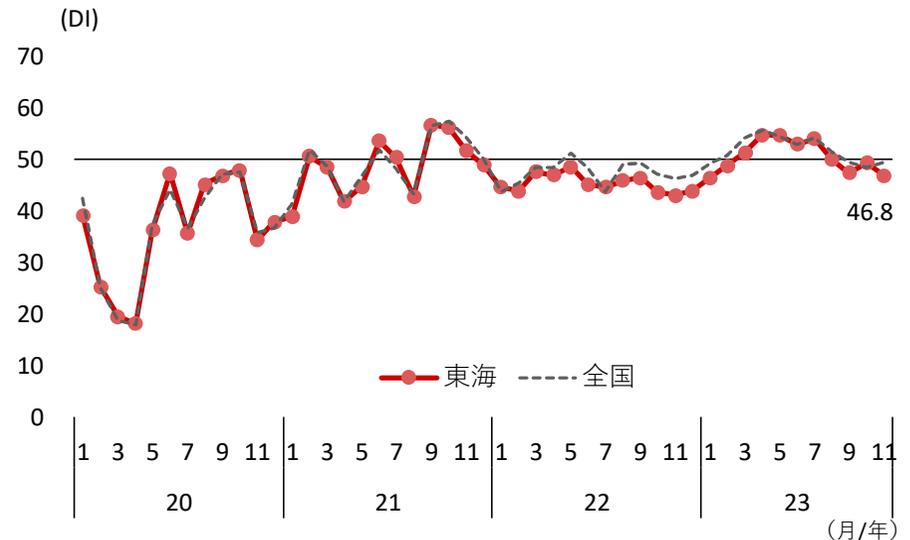
現状判断DI(季節調整値)



(全国の動き)

- 現状判断DI(季節調整値)は、前月から横ばいの49.5となった。
- 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差1.0ポイント上昇の49.4となった。
- 景気は、緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている。

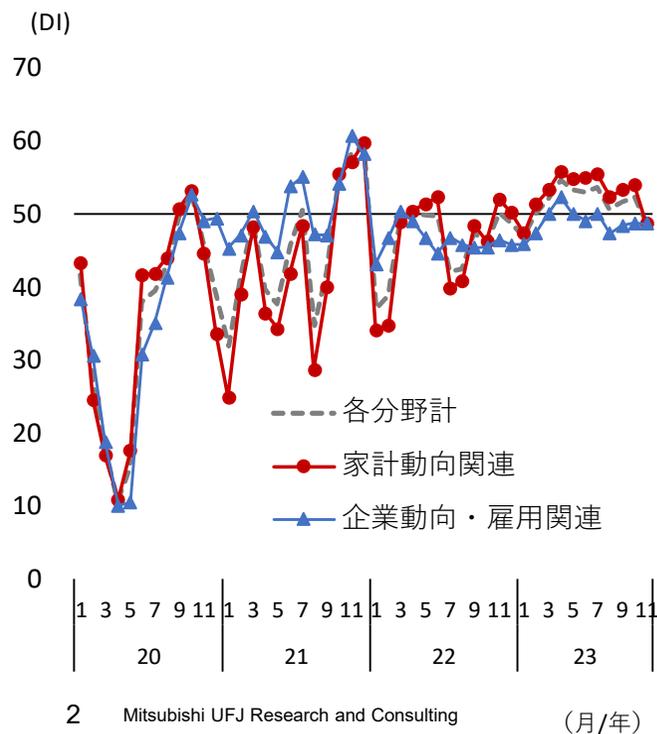
先行き判断DI(季節調整値)



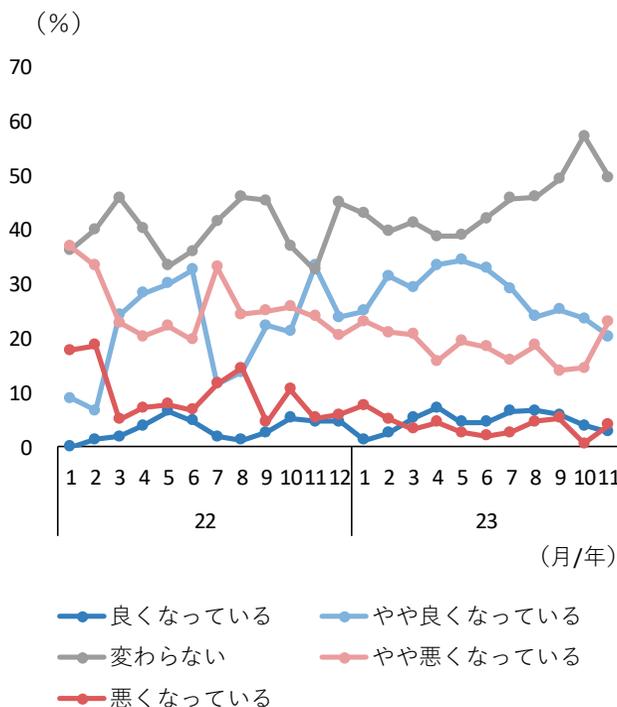
景気の現状判断(3ヵ月前との比較:原数値)

- 家計動向関連DIは横ばいを示す50を10ヵ月ぶりに下回り、企業動向・雇用関連DIは4ヵ月連続で下回った。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)、「変わらない」が低下、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)が上昇した。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)は上昇、「変わらない」は低下、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は上昇した。

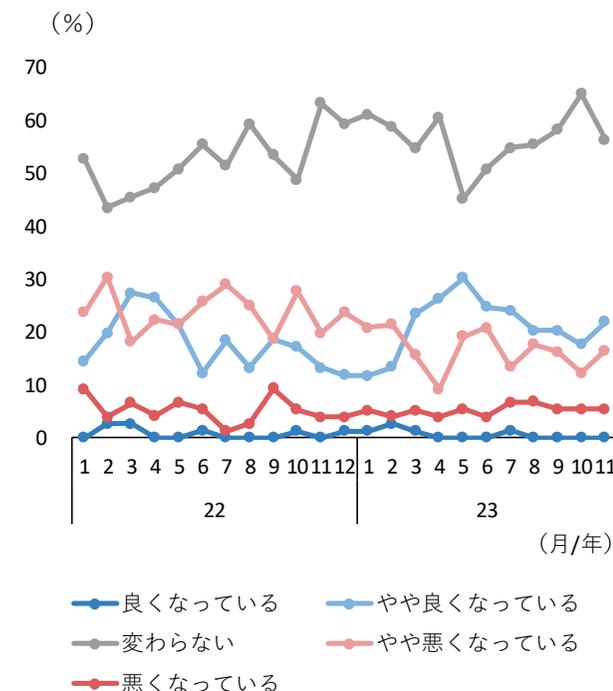
現状判断DI(原数値)



回答者構成比(家計動向関連)



回答者構成比(企業動向・雇用関連)



現状判断理由の概要

【家計動向関連】 物価上昇により売り上げは伸びても数量が減少しているとのコメントが散見される。

□	百貨店（営業担当）	・引き続き来客数は前年を上回っているが、客単価が下がってきている。以前と比べて物販のニーズが下がって、旅行などのコト消費に向かっている。
□	スーパー（店員）	・平日、土日共に来客数の変化はない。売上が上がっているのは値上げによるため、利益的には厳しい。
▲	スーパー（店員）	・値上げ自体はある程度受け入れられて、売上金額では100%を超えているが数量では90%台前半が続き、競合他社と比較しても苦戦している。
▲	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・今年春頃までは、賃上げの気運もあり値上げも受け入れられていたが、夏以降の値上げは売上数量への影響が大きく、販売量が前年比10%程度減っている。
▲	タクシー運転手	・夏頃は出足が良くなってきて、そのまま上向いていくとみられたが、ここ1か月ほどは乗車率が段々と悪くなり、売上が落ち込む日が多い。

【企業動向・雇用関連】 自動車関連で引き合いが増えている一方、物流の低迷、受注の伸び悩みも指摘されている。

○	一般機械器具製造業（営業担当）	・北米自動車向けの設備投資は、円安で現地での価格が下がっていることもあり、引き合い、問合せ共に増えている。
□	輸送業（経営者）	・国内においては生活必需品を中心とした消費財、建築関連を中心とした生産財共に物量の低迷が続いている。国際物流においては日中間の物量に回復の兆しがみえない。
□	金融業（企画担当）	・特に中小・零細企業では、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できておらず、粗利の低下が顕著である。そのような状況では、社員の給与も上げることも難しい。当面、現状の景気が続く。
□	民間職業紹介機関（営業担当）	・求人募集は高位安定しており、時季としても景況感は悪くはないが前年ほどの決定数の伸長はみられない。利益への影響などに鑑み募集停止に至る企業も出ている。
▲	鉄鋼業（経営者）	・受注量、販売量共に伸び悩んでいる。通常10～12月は年間でも通常月より販売量が1割ほど多くなるが、今年は横ばいから僅かに減少傾向にあり、例年と比べると15%ほど落ちている。

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

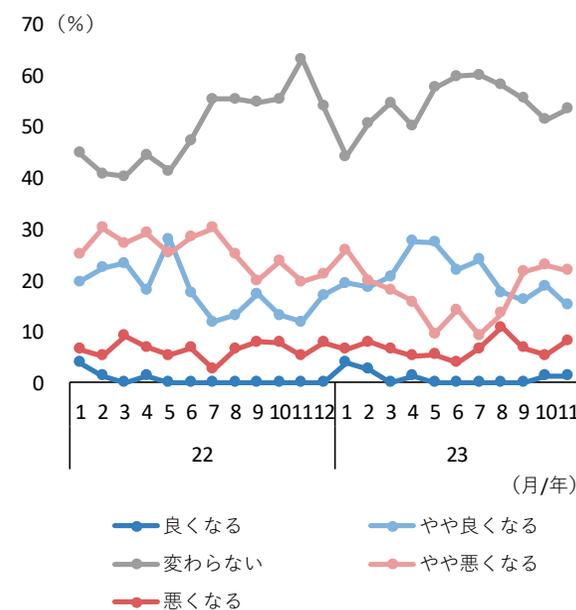
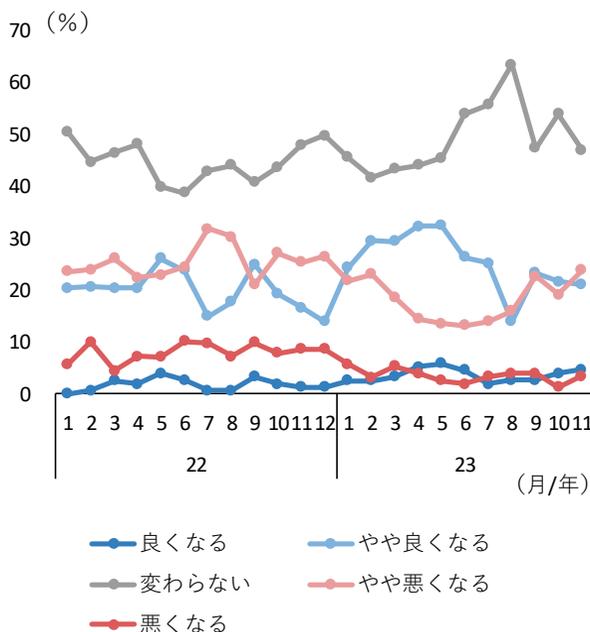
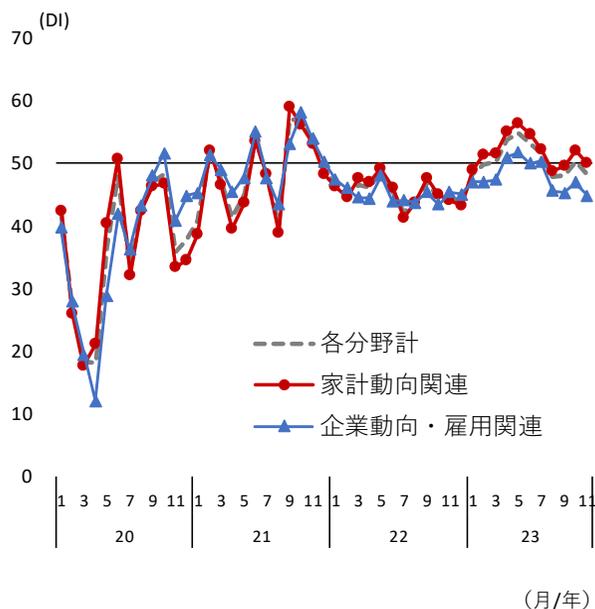
景気の先行き判断(2~3ヵ月先の見通し:原数値)

- 家計動向関連DIは、横ばいを示す50となった。企業動向・雇用関連DIは50を下回っている。
- 家計動向関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)は小幅上昇、「変わらない」は低下、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は上昇した。
- 企業動向・雇用関連の回答構成比を見ると、改善方向(良くなっている+やや良くなっている)は低下、「変わらない」は上昇、悪化方向(悪くなっている+やや悪くなっている)は上昇した。

現状判断DI(原数値)

回答者構成比(家計動向関連)

回答者構成比(企業動向・雇用関連)



先行き判断理由の概要

【家計動向関連】物価高の影響を懸念する声が引き続き多く見られる。

○	都市型ホテル（営業担当）	・予約状況を見ると引き続き増加傾向である。問合せ数も増加している。
□	百貨店（経理担当）	・物価高に伴って中間所得者層の消費マインドの低下が懸念されるが、富裕層においては株高に支えられた高額消費が更に盛り上がり、結果的に景気は現状を維持する。
▲	家電量販店（営業担当）	・今年の冬は暖冬予想のため、冬物商材への影響が心配である。
▲	乗用車販売店（経営者）	・新車供給が通常の状態に戻りつつあり、それに伴い受注は大幅な減少傾向にある。既に受注残数が無くなっているブランドもあり、今後は売上の減少が見込まれる。
▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・建築材料費、人件費等全てが上がり、施主も二の足を踏んでいる。コロナ禍の次は物価高で、まだ厳しい状態が続く。

【企業動向・雇用関連】原材料費、人件費の上昇が企業の負担感の増加につながっているようだ。

○	化学工業（営業担当）	・半導体向け需要の低調は底を打って、徐々に回復傾向にある。
○	一般機械器具製造業（営業担当）	・北米では、電気自動車への切替えのための設備投資意欲が大きくなっている。金利が高くて資金調達が難しいという声もあるが、引き合いは増えている。
□	金属製品製造業（従業員）	・仕事量は比較的多い状態が続く見込みである。この傾向のまま、来年度に入っていく。
□	電気機械器具製造業（経営者）	・素材価格や諸経費等の増加分は転嫁できている。価格上昇率が10%以上であることを考えると、受注量、販売量が増加する見込みは薄い。
□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・半導体供給の滞りが緩和されつつあり、過去最高の自動車生産台数となっているが、製造現場をけん引する人材が不足している。特に中小企業においては、賃金アップをしないと採用が難しく、賃上げの原資をどこから捻出するかが課題である。
▲	輸送業（経営者）	・物量が低迷するなかで、人件費、燃料等のコスト増加が見込まれる。
▲	輸送業（エリア担当）	・物量が伸びておらず単価もなかなか上がらないなかで、人件費や燃料代などの経費は上がっている。2024年を目前にし、冬の繁忙期に配送委託先が集まらず、委託単価を上げて無理やり集めている状況である。今後は委託先の取り合いになって、単価が一気に上がりそうである。
▲	職業安定所（職員）	・事業所の廃業や規模縮小等の相談が、頻繁に聞こえるようになっている。

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー